

はじめに

戦後80年という大きな節目を越え、今や戦争の記憶はさらに遠く、風化の波にさらされています。戦後81年目を迎えた今、私は「今こそ記録として留めなければならぬ」という思いを一層強くしております。

このたび、隊友会湘南支部ニュースの紙面をお借りし、栗田一族が歴史の荒波の中で「教育勅語」と対峙し続けたその歩みを、一人の子孫として静かに綴らせていただきます。

明治から昭和という近代日本の激動期に、先祖である国学者・帝国大学教授栗田寛、そしてその孫であり、太平洋戦争で艦隊を率いた海軍中将栗田健男がいました。二人の歩みは、教育勅語という言葉が時代とともにどのように姿を変え、人々の心と運命を揺さぶっていったのかを、一族の歴史を通して問いかけてきます。

教育勅語は、単なる「道徳の教え」ではなく、国が人々に示した精神的なよりどころでありました。その解釈が変わっていった背景に、どのような時代の思惑や空気があったのかを見つめ直すことは、現代を生きる私たちにも、意味のある作業だと感じています。

栗田寛の『勅語講義』と教育勅語

明治二十三年（一八九〇年）に教育勅語が發布されたとき、その内容を理解しやすく伝えるため、各地の学校や大学でさまざまな講義や解説が行われました。その中で大きな役割を果たしたのが、国学者であり帝国大学教授でもあった先祖・栗田寛による『勅語講義』でした。いまも水戸市六反田町の六地藏寺の一

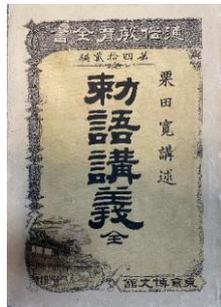


栗田寛の墓碑
(茨城県水戸市六反田町・六地藏寺)

角に、寛の墓碑は静かに佇んでいます。墓前に立つと、文字に刻まれた年月と、学問に生きた一人の人間の重みが、身内として胸に迫ってきます。現在、この墓を訪れるのは、私ただ一人です。

寛の講義の中心にあるのは、日本人が大切にしてきた「徳」の教えでした。親を思う気持ち、兄弟姉妹との和やかな関係、夫婦が互いを支え合う姿、そして友人との信義を守ること。こうした、日々の暮らしの中で育まれる人の温かさを、寛は何よりも尊いものとして語っていたと伝わっています。

寛にとつて、教育勅語は「上から押しつけられる規範」というよりも、人としての自然な在り方をあらためて見つめ直すための道しるべでした。儒教の教えと日本古来の心を重ね合わせながら、周囲の人を大切にして生きるとはどういうことかを、言葉を尽くして解きほぐそうとしていたのだと思います。



『勅語講義』(栗田寛 著)

帝国大学での講義をもとにまとめられたこの一冊は、当時、教育勅語を理解するための手引きとして、多くの人々の手に取られました。私にとつては、のちの健男たちの世代へと想いを繋ぐ「言葉の架け橋」のようにも感じられます。しかし、時代が進むにつれて、『勅語講

義』で語られた穏やかな徳目は、しだいに国家の政策と結びつき、軍事的な色彩を帯びるようになっていきました。本来は人の心を豊かにするための教えであったはずの言葉が、「国家への忠誠」を強く求める方向へと傾いていったことに、子孫として複雑な思いを抱かずにはいられません。寛が描いた「人倫の道」は、やがて「戦時の道徳」へと姿を変えました。その変化は、言葉がどれほど大きな力を持ち、時代によつて意味を変えていくのかを考えさせる、重い課題を投げかけています。



『勅語』本文

海軍中将 栗田健男の葛藤

こうした言葉の変質に、最も深く心を痛めたひとりが、海軍中将となった栗田健男だったのでないかと感じています。

健男にとつて、祖父・寛が残した言葉は、単なる教科書の文句ではなく、「こうありたい」と願う人の姿を示す身近な教えだったはずで、家の中で語り継がれてきた学問への真摯さや人柄への敬意が、彼の人格を形づくっていたことを思うと、その心の内を、同じ一族の者として想像せずにはいられません。

ところが、戦争が激しくなると、教育勅語は「国や天皇のために命を捧げること」を正当化するための言葉として使われるようになりました。

祖父が「生きること」を支えるために説いた教えが、「死ぬこと」を求める論理へと変えられてしまった現実には、健男はどれほど深い矛盾と悲しみを覚えたことでしょうか。軍人として司令部の命令に従わなければならぬ立場と、一族の思想を受け継ぐ者としての良心。そのはざまで揺れ動く健男の姿を思うと、家族の一人として、今も胸が締めつけられるような思いがいたします。(後編につづく)

令和7年度年会費納入者(敬称略)

湘南支部長(十二月二十三日現在)

次の会員各位から年度会費を納入していただきました。ご協力に感謝申し上げます。特別会員 松長由美絵、

支部会員の計報

謹んでご冥福をお祈り致します
正会員 故 村上 健孝 氏
令和7年7月5日 ご逝去

「支部の予定」

- 02/14 (土) 第11回支部理事役会
- 02/20 (金) 2月号隊友紙発送
- 03/07 (土) 第12回支部理事役会
- 03/08 (日) 藤沢地区入隊・入校激励会
- 03/15 (日) 神奈川自衛隊音楽まつり
- 03/23 (月) 3月号隊友紙発送

編集後記

1月11日近所で火災がありました。空気が乾燥している時期なので火の元には注意しましょう。今後とも各種ジャンルに亘る、ご寄稿のご協力を宜しくお願い致します。